第２回　横浜市都筑区地域ケアプラザ指定管理者選定委員会議事録	
日時	令和７年４月 18 日（金）午後１時 15 分～午後５時 15 分
会場	都筑区役所６階大会議室
出席者	委員長　山本　博之（田園調布学園大学社会福祉学科　社会福祉専攻教授） 委員　　石川　眞理子（都筑区民生委員児童委員協議会　監事） 大野　和子（都筑区保健活動推進員会　会長） 木村　博子（都筑区主任児童委員連絡会　代表） 坂田　信子（都筑区障害児・者福祉団体連絡協議会　会長） 佐藤　力（都筑区連合町内会自治会　福祉保健部会） 佐藤　洋子（特定非営利活動法人こども応援ネットワーク　理事長） 竹森　順一（東京地方税理士会緑支部　税理士） 事務局　都筑区福祉保健センター長　中山　昭 都筑区福祉保健センター担当部長　澤田　賢一　他４名
欠席者	なし
開催形態	一部非公開（応募団体の面接審査、指定管理者の候補者（以下、「指定候補者」という。）及び指定候補者を指定管理者として指定できない場合に指定候補者に代わって指定候補者となる者（以下「次点候補者」という。）の選定に関する審議について非公開）（傍聴人０人）
議題	１　事前確認事項 ２　応募団体の面接審査 (1) 応募団体の面接審査 (2) 本市重要政策を踏まえた応募団体の取組状況、前期実績報告書、財務状況評価の説明 ３　指定候補者及び次点候補者の選定、講評
決定事項	指定候補者及び次点候補者として、次のとおり、横浜市都筑区長に報告することとする。 １　横浜市加賀原地域ケアプラザの指定候補者 指定候補者：社会福祉法人中川徳生会 次点候補者：なし ２　横浜市中川地域ケアプラザの指定候補者 指定候補者：社会福祉法人若竹大寿会 次点候補者：なし ３　横浜市葛が谷地域ケアプラザの指定候補者 指定候補者：社会福祉法人横浜市社会福祉協議会 次点候補者：なし ４　横浜市新栄地域ケアプラザの指定候補者 指定候補者：社会福祉法人横浜市福祉サービス協会 次点候補者：なし

議事	<u>１　事前確認事項</u> 　事務局から、公募の結果、４団体から応募書類の提出があった旨を報告するとともに、次の３点について確認した。 〇委員会の公開・非公開 　応募団体審査、指定候補者及び次点候補者の選定に関する審議について非公開とすることを確認。（第１回委員会で審議済み） 〇面接審査の進め方及び質問項目の確認 （事務局） ・面接審査の全体の流れ、質疑応答の流れ、最終審査の流れについて説明。 ・１施設に対して１団体のみの応募となっている施設については、最低制限基準に満たない場合は、再選定を行う旨を再確認した。 （委員） ・ヒアリング時の質問項目を確認した。 〇応募団体の資格要件等について （事務局） ・資格要件を満たすこと、欠格事項に該当しないことを報告。 ・欠格事項のうち、「暴力団又は暴力団経営支配人等ではないこと」に関して、神奈川県警に照会した結果、該当しないとの回答を受けた旨や市税納付状況等の確認を行った結果、資格要件を満たしている旨を報告。 <u>２　応募団体の面接審査</u> （１）　横浜市加賀原地域ケアプラザ ア　プレゼンテーション 団体から、団体の概要、事業計画等について説明 イ　主な質疑応答 （委員）子どもの地域ケアプラザ利用や事業参加が、ひいては地域支援につながると考えるが、具体的に地域ケアプラザと子どもをどのように繋げていくのか。 （団体）まずは地域福祉にふれる機会を増やし、地域ケアプラザの事業を通じて子どもたちが「自分にもできること」を考え、地域のことに関心を向けてもらえたらよいと考えている。 （委員）高校生とのコラボレーション事業はどのような内容か。 （団体）まずは高校生の意見や視点を取り入れていきたい。これまでも高校生がボランティアでボードゲーム遊びに参加してきた。 （委員）担い手不足とあるが、どの範囲の担い手づくりを検討しているか。

	（団体）地域ケアプラザや自治会町内会および民生委員・児童委員等の地域活動の担い手を想定している。 ウ　本市重要政策を踏まえた応募団体の取組状況、前期実績報告書、財務状況評価の説明 事務局より本市重要政策を踏まえた応募団体の取組状況について説明。 事務局より前期実績報告書について説明。 竹森委員より財務分析結果報告書について説明。 エ　採点および意見交換 委員ごとに応募書類及びプレゼンテーション等をもとに評価・採点を行い、評価に関する確認等を行った。 （２）　横浜市中川地域ケアプラザ ア　プレゼンテーション 団体から、団体の概要、事業計画等について説明 イ　主な質疑応答 （委員）認知症に対する理解について、具体的取組を聞きたい。 （団体）地域ケアプラザから距離的に離れているエリアについては、認知症サポーター養成講座等出張講座を実施している。また、認知症カフェ運営のお手伝いや小・中学校等で福祉教育も行った。 （委員）　エリア内にある「親と子のつどいの広場」や「地域子育て支援拠点」等との交流は検討しているか。 （団体）子育て世帯との地域交流や多世代交流は重要だと考えている。 多世代交流の取組として、夏休み中の小・中学生を対象に、シニア世代と認知症マスコット「ロバ隊長」のストラップを製作する講座を開催した。 （委員）賃借対象表をみると借入金の比率が高い。事業を拡大していく企業に見られる形ではあるが今後の事業・返済方針について伺いたい。 （団体）今後も大型施設開所にあたり、厳しい時期もあるかとは思うが、利益や収益の上がる事業を継続していく。 ウ　本市重要政策を踏まえた応募団体の取組状況、前期実績報告書、財務状況評価の説明 事務局より本市重要政策を踏まえた応募団体の取組状況について説明。 事務局より前期実績報告書について説明。 竹森委員より財務分析結果報告書について説明。 エ　採点および意見交換 委員ごとに応募書類及びプレゼンテーション等をもとに評価・採点を行い、評価に関する確認等を行った。

	（３）　横浜市葛が谷地域ケアプラザ ア　プレゼンテーション 団体から、団体の概要、事業計画等について説明 イ　主な質疑応答 （委員）貸借対照表を見ると貸付金が多い。回収可能性について問題はないか。 （団体）主に、社会福祉法人の施設整備費に係る貸付金であり、新規の貸付は終了しており、今後貸付額が増加することがなく、返済も適切にされているため、問題はない。 （委員）外国人からの相談はあるか。 （団体）今のところ相談はないが、地域ケアプラザでも多文化や多言語にかかる支援等を行っていることを周知していく。 （委員）高齢者・障害者・子育て・ボランティアといったそれぞれの事業を交差させて共生社会を実現していくとの説明があったが、具体的取組について聞きたい。 （団体）高齢者の手芸サロンを夏休みに開催し、子どもたちと多世代交流を図る等事業を組み合わせて実施している。 （委員）地域福祉への関心が低い層に対してアプローチしているか。 （団体）町内会の協力を得て広報誌の回覧や、薬局や郵便局での配架を行っている。ホームページでも広く周知している。 （委員）障害に関する相談はあるか。 （団体）ハッピーアワー（障害者の余暇支援活動）に関するお問合せや8050 問題の相談から障害の相談につながることがある。 ウ　本市重要政策を踏まえた応募団体の取組状況、前期実績報告書、財務状況評価の説明 事務局より本市重要政策を踏まえた応募団体の取組状況について説明。 事務局より前期実績報告書について説明。 竹森委員より財務分析結果報告書について説明。 エ　採点および意見交換 委員ごとに応募書類及びプレゼンテーション等をもとに評価・採点を行い、評価に関する確認等を行った。 （４）　横浜市新栄地域ケアプラザ ア　プレゼンテーション 団体から、団体の概要、事業計画等について説明 イ　主な質疑応答 （委員）外国人への支援はしているか。 （団体）エリア内の団地でウクライナ難民を受け入れた際は、英語を話せ

るボランティアと連携し支援を実施した。
（委員）男性の居場所づくりについて、具体的内容を聞きたい。
（団体）メンズライフ講座として「クラフトビールを学ぼう！」や「都筑を歩く」という事業を実施した。
（委員）子育て支援機関との連携とあるが、どのような機関と連携しているか。
（団体）主任児童委員やボランティア団体、小学校とも連携している。
（委員）障害者支援における相互理解の促進について具体的内容を聞きたい。
（団体）作品展示だけでなく、ボッチャなど障害の有無を問わず交流できる事業を進めていく。
（委員）団体本部経費の計上がないが、経費の考え方について聞きたい。
（団体）団体本部経費は指定管理料からは計上せず、介護保険事業収入等を活用し、負担する。
（委員）法人としての強みはあるか。
（団体）市内21か所で地域ケアプラザを運営している。専門職が横断的に情報共有を図り、事例検討を行っている点は強みである。

ウ　本市重要政策を踏まえた応募団体の取組状況、前期実績報告書、財務状況評価の説明

事務局より本市重要政策を踏まえた応募団体の取組状況について説明。
事務局より前期実績報告書について説明。
竹森委員より財務分析結果報告書について説明。

エ　採点および意見交換

委員ごとに応募書類及びプレゼンテーション等をもとに評価・採点を行い、評価に関する確認等を行った。

３　指定候補者及び次点候補者の選定、講評

各委員の評価結果を集計し、各委員の評価点及び理由等の相互確認による協議を実施。

（１）横浜市加賀原地域ケアプラザ

	応募団体	評価得点／満点	最低制限基準得点（基準点）
指定候補者	社会福祉法人 中川徳生会	1,372／1,950点	1,304点 （1,062点）
次点候補者	なし		

（審査講評・意見等）

・地域課題、特に将来の担い手育成について、新しい発想で取組を進めている。今後も、様々な特性を持つ子ども等への包括的な事業展開を期待したい。

・地域との関係性も良好で地域情報の収集に長けている。
・財務状況について、収益性が高く問題ない。

（２）横浜市中川地域ケアプラザ

	応募団体	評価得点／満点	最低制限基準得点（基準点）
指定候補者	社会福祉法人 若竹大寿会	1,376／1,980 点	1,360 点 (1,080 点)
次点候補者	なし		

（審査講評・意見等）
・放課後等デイサービスや計画相談支援等、障害児者を対象に幅広く事業展開している点は、この法人の強み。
・大きな法人だからこそ法人単体でできることも多いが、地域の資源をもっと活用し、既存の団体との交流や圏域内の大学等との連携等、地域に開かれた地域ケアプラザとなり、高齢者だけでなく障害児者や子どもへの包括的な支援を期待したい。

（３）横浜市葛が谷地域ケアプラザ

	応募団体	評価得点／満点	最低制限基準得点（基準点）
指定候補者	社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会	1,453／2,010 点	1,365 点 (1,098 点)
次点候補者	なし		

（審査講評・意見等）
・高齢者、障害者、子育て、ボランティア活動、各分野への支援がバランス良く実施され、充実している。
・民生委員・児童委員や地域住民等に、北部地域療育センターの見学や障害理解に関する研修を実施する等、合築施設と連携している点は評価できる。

（４）横浜市新栄地域ケアプラザ

	応募団体	評価得点／満点	最低制限基準得点（基準点）
指定候補者	社会福祉法人 横浜市福祉サービス協会	1,436／1,950 点	1,332 点 (1,062 点)
次点候補者	なし		

（審査講評・意見等）
・地域情報の収集や分析がしっかりされていた。提案書の内容も具体的で分かりやすく、誠実に事業実施していることが伝わった。

	・本部経費を指定管理料から計上しておらず、指定管理料が地域ケアプラザの運営のために有効に活用されている。財務状況も問題なく、健全な運営を行っている。 応募団体の得点は、最低制限基準を満たしているため、選定委員会として社会福祉法人中川徳生会他を指定候補者として選定することを決定する。
資　料 ・ 特記事項	1　資料 (1)　次第 (2)　別紙「採点の流れについて」 (3)　財務分析結果報告書（資料１） (4)　前期の指定管理業務の実績（資料２） (5)　採点表 (6)　応募書類 2　特記事項 特になし